

熊谷市史編さん委員会・編集会議・専門部会 報告

(平成二八年一月～一二月)

Ⅰ 熊谷市史編さん委員会報告

平成二七年度 熊谷市史編さん委員会

日時 平成二八年二月二四日(水)午後二時～

場所 熊谷市立商工会館 二・一会議室

【概要】

1 報告事項

① 編さん委員会、編集会議について

② 専門部会の調査活動について

・各委員、事務局よりそれぞれの専門部会についての報告を行った。

③ 事務局が行った基礎調査等について

④ 寄贈・寄託資料について

・妻沼小池家文書、行田市長野氏所蔵資料、玉井山崎家文書、さいたま市野口氏収集文書、横浜市久米氏収集文書、戸出杉浦家所蔵資料。妻沼鈴木氏収集文書、行田市長野氏提供資料について、概要の説明を行った。

⑤ 「別編2 妻沼聖天山の建築」について

⑥ 「市史研究第8号」「市史報告書」について

⑦ 広報活動・講演会等について

【意見等】

・『熊谷市史』執筆者による講座を市立熊谷図書館にて開催しているが、毎回受講者の関心が高く好評を得ているようだ。ぜひ、今後も続けてほしい。

・妻沼茂木家文書の天王祭礼・祇園番などの文書資料は貴重である。

・行田市市長野氏提供資料の熊谷駅の写真は興味深い。近代熊谷の物産会等の写真についても留意されたい。

2 審議事項

① 通史編上巻 原始・古代・中世について

・事務局より、全体の概要、編集の進捗状況について説明を行った。

なお、熊谷市自治会連合会役職の交替に伴い、平成二九年二月一日より、次の方の市史編さん委員委嘱・解嘱を行った。

(解嘱) 野口幸雄 (市民団体の代表者)
(委嘱) 細田 茂 (市民団体の代表者)

II 熊谷市史編集会議報告

日時 平成二八年四月一七日(土) 午後二時〜

場所 市立熊谷図書館 第二会議室

【概要】

1 経過報告

・平成二六年度第二回、二七年度編さん委員会報告

・平成二六年度編集会議報告

2 各専門部会活動報告

・考古、古代、中世、近世、近代、現代、妻沼聖天山、仏像専門部会及び学校資料調査について編集委員及び事務局より報告

3 事務局が行う基礎調査等の活動報告

4 広報活動について

5 平成二八年度の計画について

6 「通史編上巻 原始・古代・中世」の編集について

・仏像等の資料については、林宏一仏像専門部会長が叙述することとなった。

・熊谷宿については、上巻では難しい課題であるが、一応取り上げる。通史編中巻 近世とのつながりについては、上巻の取り上げ方を見て対応することとする。

(文責 蛭間 健悟)

III 専門部会活動報告

一 考古専門部会

考古専門部会長 柿沼幹夫

細田勝専門調査員 第一章 採集社会の人びと
吉田稔専門調査員 第二章 農耕社会の成立

柿沼幹夫部会長 第二章第三・四節

関義則専門調査員 第三章 ヤマト政権の誕生と武蔵

平成二八年度は、『熊谷市史 通史編・上巻』（以下、通史編上）の執筆を鋭意進めた。執筆にかかる関係者会議は、次のとおり開催した。

1 担当専門部会長会議

（平成二八年四月一七日 市立熊谷図書館）

考古部会長の柿沼は所用により欠席したが、宮瀧交二古代専門部会長、高橋修中世専門部会長から第一・二・三章の項・見出しについて修正意見が提案された。

2 通史編上執筆者会議

（平成二八年八月一日 中央公民館会議室二―一）

考古専門部会は、次のとおり執筆概要を説明し、質疑を受けた。

清水康守特別調査員 第一章第一節「荒川の流路変遷」

3 考古専門部会（平成二七年度未報告分含む）

①平成二七年度第三回専門部会会議

（平成二八年二月二〇日 熊谷市役所本庁舎）

平成二七年一月二二日開催の通史編上巻執筆者会議で章目立ての修正意見が出された。それを受けて新たに検討された章目立てについて意見交換した。また、次の提出原稿について、執筆者から概要説明があり質疑応答を行った。

第一章 清水、細田

コラム「土器庄痕から見た熊谷市周辺の弥生農業」

遠藤英子専門調査員

②平成二八年度第一回専門部会会議

（平成二八年五月二二日 熊谷市役所本庁舎）

項・見出しにかかる修正意見について確認を行い、前回に続き、次の提出原稿について概要説明してもらい、

質疑応答した。

第二章 吉田、柿沼

第三章 関

③平成二八年度第二回専門部会会議

(平成二八年七月一六日 熊谷市役所本庁舎)

通史編上執筆者会議に向けて、項・小見出し、原稿内容の確認。

④平成二八年度第三回専門部会会議

(平成二八年一〇月二九日 商工会館会議室二一一)

通史編上執筆者会議の指摘を受けて、執筆内容の変更箇所、参考文献・図版出典の書き方等についての確認と検討を行った。

二 古代専門部会

古代専門部会長 宮瀧 交二

平成二八年の古代専門部会は、『熊谷市史 通史編・上巻(原始・古代・中世)』(以下、『通史編』とする)の刊行に向けての準備作業を継続した。

年間を通して部会構成員のそれぞれが、『通史編』の刊行に向けて、これまでに実施してきた当該地域の古代史に関する資料・情報の収集活動に立脚して、鋭意、各自が担当する原稿の執筆活動に専心した。

このような活動に伴い、原稿執筆の進展状況の確認、執筆に際して浮上する様々な問題の共有・確認等を目的とした部会会議を実施し、専門部会会議は下記の計六回開催した。

1 平成二七年度第二回専門部会会議

(平成二八年三月五日 熊谷図書館第二講座室)

2 平成二八年度第一回専門部会会議

(平成二八年四月一六日 市役所三〇三会議室)

3 平成二八年度第二回専門部会会議

(平成二八年七月二三日 大東文化大板橋キャンパス)

4 平成二八年度 第三回専門部会会議

(平成二八年九月二五日 大東文化大板橋キャンパス)

5 平成二八年度 第四回専門部会会議

(平成二八年一二月四日 大東文化大板橋キャンパス)

6 平成二八年度 第五回専門部会会議

(平成二九年一月一五日 大東文化大板橋キャンパス)

今後は、考古専門部会や中世専門部会との原稿の摺り合わせ等の残務があるが、確実にこれを実施し、『通史編』の刊行に漕ぎ着けていきたい。

(平成二九年一月末日現在)

三 中世専門部会

中世専門部会長 高橋 修

1 専門部会会議の開催

① 第一回専門部会会議

(平成二八年七月一〇日 市立熊谷図書館)

事務局より、「通史編上巻」刊行までのスケジュールの説明があり、委員間で工程の確認を行った。特に、全体として執筆の進捗状況が遅れていることから、各自が執筆の速度を速め、早く提出するよう努めることとした。次いで、各章の責任者を中心に、原稿の確認・調整作業を行った。具体的には、各執筆者間での細かな担当分け等を行った。また、長井荘域、玉井氏の動向、下田町や中条等の遺跡と町場、三入熊谷氏、江ノ島合戦、戦国の領主の呼称、嘉禄の板碑等について、意見交換が行われた。

② 第二回専門部会会議

(平成二八年八月二七日 中央公民館)

この会議に先立ち、考古・古代専門部会と合同で、執

筆者会議を開催した。各執筆者が自らの担当箇所についての発表を行い、意見交換等を行った。

引き続き、中世専門部会の会議を行った。仏像専門部会林宏一専門委員にも参加いただき、各執筆箇所調整コラムの検討等を行った。また、村岡の渡河点、荒川の変遷等については見解が分かれていることから、原稿が集まってから再検討を行うこととした。

以上の会議の検討等を踏まえ、平成二八年中は各自が執筆を進め、年末にはほぼ原稿を揃えることができた。これから、刊行に向かって調整を行っていく。

2 中世石造物調査

市域全体を対象とし他現地調査が終了したので、調査報告書の刊行に向けて編集会議を開催した。

平成二七年度第三回会議は、二八年三月二〇日に開催した。会議では所在地が四七三地点、総数三〇四九基の集計結果を報告した。市史報告書では、調査対象の事実報告を主とした図版・写真・集成表からなる資料集としての性格とともに、熊谷地域の中世石造物の特徴や性格

などを概説・紹介した内容も含ませることで協議が行われた。この報告書の章目立てを検討し、執筆者を分担し執筆作業に移行した。

平成二八年度第一回会議は六月二五日に開催した。前年度までに遺跡から出土した資料を追加し、章目立ての詳細について検討と確認を行った。年度末に向けてさらに作業を深化させていくことになった。

第二回会議は二月一日に開催し、諏訪木遺跡出土中世石造物の実見を江南文化財センターで実施した。また、編集作業の中間報告について執筆者・事務局の報告を行い、章目立ての調整などをおこなった。

四 近世専門部会

近世専門部会長 北村 行遠

近世部会では、平成二八年の主な活動として、平成二七年度第三回部会、平成二八年度第一回部会、第二回部会を開催した。平成二八年度はあと一回の部会を予定している。以下、部会の活動内容について略述する。

平成二八年度第三回近世部会（平成二八年三月一八日）

・古文書調査について

編さん室より古文書の所在確認・調査状況の報告があり、調査終了の文書群として、妻沼の小池仁家文書、玉井の山崎常見家文書など四件の説明があった。つぎに調査継続中の文書群について、平塚新田の山下一夫家文書をはじめ三七件の報告をうけた。また、新たに受け入れた文書として、日向の船田洋一家文書など七件の報告があった。昨年度以前の調査継続中の古文書も多いものの、専門部会の要望に応えつつ優先順位の高い文書から整理をすることとなった。

・資料編の進捗状況について

資料編（三冊）の構成について検討がなされ、細野専門調査員から近世初期から中期にかけての妻沼地域の主な史料リストの提示がなされるなど、古文書調査の進捗状況と合わせて、より具体的な構成案を提示する方向で作業を進めることとなった。

・今年度の調査について

遠隔地の調査として、石山・細野専門調査員より長崎県島原市の本光寺・常磐歴史資料館の調査についての報告がなされ、近世初期の熊谷市域の古文書を閲覧・写真撮影をした旨の報告があった。

・県立農業大学校への出講について

石山専門調査員より、十一月一〇日に農業大学校で開講している「郷土史」に出講し、主に歓喜院聖天堂を中心に地域の歴史について講義した旨の報告があった。

平成二八年度第一回近世部会（平成二八年七月一四日）

・古文書調査について

編さん室より古文書の所在確認・調査状況の報告があり、調査終了の文書群として、四方寺の吉田康久家文書をはじめ三件の説明があった。なお、この吉田家の調査は、立正大学古文書研究会との共同事業においてなされ、文

書目録が刊行されている。つづいて現在調査中の文書群として、平塚新田の山下一夫家文書をはじめ四〇件の報告をうけた。昨年度以前の調査継続中の古文書も多くなっており、点数も相当多いため専門部会の要望に応えつつ調査をおこなっている。新たに受け入れをした文書群として、妻沼台の円満寺文書ほか四件と、古書店よりの購入文書の説明があった。このほかに旧大里町所蔵の村史編さん資料が見つかり、目録作成についての説明がなされた。

・資料編の進捗状況について

資料編（三冊）の構成について検討がなされ、担当者によってそれぞれの進捗状況の説明があった。また、細野委員より、資料編（妻沼）について、章立てなどの構成面の変更などの作業報告があった。

・古文書所在調査について

埼玉県立文書館の休館にともなう古文書の閲覧業務停止を鑑み、調査員による上江袋の長島家文書の報告があった。また、今後の調査計画として市内の忍藩領関係の史料調査に関わり、行田市博物館所蔵文書の調査について検討した。

・専門調査員の増員について

被差別部落関係の執筆担当者について検討がなされたが、事務局一任の方向で了承され、東日本部落解放研究所から選出していただくことで調整していく旨、事務局より報告を受けた。

このほかに、埼玉県地方史研究会、埼玉地理学会、埼玉考古学会の三学会共催の埼玉県地域研究発表会に、細野健太郎専門調査員が、歓喜院聖天堂に関する報告をする旨の報告があった。

平成二八年度第二回近世部会（平成二八年一月一八日）

・古文書調査について

編さん室より古文書の所在確認・調査状況の報告があり、調査終了の文書群として、石原の清水清治家文書について説明があった。また、現在調査中の文書群について、平塚新田の山下一夫家文書はじめ四四件のほか、旧大里町の村史編さん資料の説明があった。

・資料編の進捗状況について

資料編（三冊）の構成について検討がなされ、妻沼編・熊谷宿の担当者によってそれぞれの章立て案や掲載する資料などの説明がなされた。

・古文書所在調査について

埼玉県立文書館所蔵の長島家文書調査の進捗状況について報告があった。また、今後の調査計画として、行田市博物館、国文学研究資料館などに所蔵される古文書の調査について検討した。

・通史編の体裁について

通史編上巻の執筆要項の作成にともない、近世部会において、時代区分等の基本的事項の確認および検討がなされ、資料編の構成と合わせて継続して検討する方向で部会内の了承を得た。

五 近代専門部会

近代専門部会長 村田 安穂

1 平成二七年度第三回近代専門部会会議

(平成二八年二月二七日 市立熊谷図書館)

資料編凡例・執筆要綱、筆写要綱をもとに、西暦表記の順番や旧字、合字、助詞などの掲載方法について協議し、修正箇所を事務局に提示した。なお、今後も意見があれば会議で提言することにした。次に、資料編目次担当者、史料リストの検討のため、各委員より進捗状況を報告した。その後、事務局より人権問題担当者の選出状況について説明をうけた承した。他に、新聞記事調査(全国版)を事務局に依頼した。

2 平成二八年度第一回近代専門部会会議

(平成二八年六月二六日 熊谷市立図書館)

刊行に向けてスケジュールの再確認を行い、掲載資料リストの締切を九月末とした。なお、リスト中の史料の重複は委員間で調整し、全史料には掲載の優先順位(三段階)をつけることとした。他に、出典名の記載方法には、

まず事務局より素案を提出することや、今後現代部会との合同部会を開催すること等を審議した。

次に、各委員が進捗状況を報告した。その後、事務局より活動報告があり、古文書調査は妻沼地域を優先し整理する、また新聞記事調査は東京日日新聞を本年度中に終了させる方針を了承した。

3 平成二八年度第二回近代専門部会会議

(平成二八年一月五日 市立熊谷図書館)

初めに、事務局より資料編体裁の変更点について説明があった。検討の結果、追加の修正を指示した。次に各委員より選択した史料についての説明があり、個々の進捗状況を確認し、問題点について審議を行った。その後、事務局より、筆耕は予算の都合上、掲載の優先順位の高い史料のみにせざるを得ないとの説明があり、各委員で更に精査することとした。また、新規借用文書では、俵瀬荻野家文書を中心とした文書群の調査を部会で実施することを了承した。

六 現代専門部会

現代専門部会長代理 高橋 信之

1 平成二七年度第四回現代専門部会会議

(平成二八年一月二四日 妻沼展示館)

事務局提示の資料編執筆要綱、凡例等について、他県の資料も参考にしながら協議した。図書の体裁がB5版縦組み二段なので、原文横書きの資料は原則として縦書きとする。そのため、原文中の算用数字は漢数字にするが、横書きで書かれた表については例外を含め編集段階で個々に協議する。その他、桁数の多い数字の扱い、地名・人名表記、西暦(和暦)の表記順等についても協議した。なお、現代専門部会で扱う資料には掲載前に現課で確認を要する資料も含まれることがあるので事務局と協議を要す。

各委員の活動報告、産業・経済分野では埼玉県工業便覧、工業適地調査等を調査した。社会・労働分野では新聞記事調査を実施、政治・行政では民間資料の発掘に努めた。

※午前中は展示館で資料調査実施

2 平成二八年度第一回現代専門部会会議

(平成二八年四月二三日 妻沼展示館)

(1) 資料編掲載候補史料の検討

社会・労働分野では、埼玉県の労働関係をあたっていが資料は少ない。福祉、環境、ゴミ、下水等についても資料の発掘をしたい。妻沼町が合併時に作成した報告書新妻沼町報告書(昭和三二年)の中の生活改善の項目は抜粋したい。政治分野では、県の行政文書で戦後の普通選挙や通達類など、大我井青年学校の資料を使用する。教育・文化関係では、戦後の民主化への対応では大我井青年学校資料を、新制中学校の発足関係は各中学校の学校沿革誌を使用する。産業分野では、土地改良関係資料が多い。農業の変化してきた状況を把握できる資料がほしい。

(2) 事務局活動報告

プランゲ文庫の読売新聞は五月から実施する。河川事務所調査は近代部会の特別調査員と相談して調査する。

※午前中は展示館で資料調査を行う

3 平成二八年度第二回現代専門部会会議

(平成二八年六月二五日 妻沼展示館)

(1) 資料編掲載候補史料の検討

社会・労働分野では、点数は多いが各々の字数は少なく頁数は多くなならない。産業分野では点数は少ないが、表が多く、頁数は多くなる。政治分野ではまた頁数は考えられない。活字のポイントを変える場合には事前に相談してほしい。事務局としては今年の秋までには資料の提出をお願いしたい。

(2) 事務局活動報告 水品囑託より説明

(3) 小中学校調査

五月二四日熊谷市立新堀小・三尻小訪問
※午前中は展示館で資料調査実施

4 平成二八年度第三回現代専門部会会議

(平成二八年八月二八日 妻沼展示館)

(1) 体裁について

出典は前にあつた方が分かり易い。出典表記は、日付・タイトル・著作者、所蔵者、館蔵とか詳細にすると分かり易い。事務局で新聞、行政文書、諸家、活字本のいく

つかの例をあげて提示してもらいたい。タイトルが先で、その後に年号を表記してほしい。県報は出来れば号数、年月日を入れてほしい。

(2) 各分野の活動状況

政治分野では、重複史料をチェックし掲載候補から外しているが、各分野でも重複する資料の調整が課題となる。産業分野では、七章の区切りが難しい、交通関係では道路、バス、自動車、橋など総合的な問題があり、商業の広がりも視野に入れてほしい。社会・労働分野では、史料をカード化する段階で取捨選択している、生活に関わっている部分を重点的掲載する。

(3) 事務局活動報告、小林囑託から簡潔に報告があり、プランゲ文庫の記事搜索・目録入力について優先順を指示するよう要望があった。

※午前中は展示館で資料調査をした。

5 平成二八年度第四回現代専門委員会会議

(平成二八年一月二〇日 妻沼展示館)

(1) 資料編体裁・掲載候補リスト検討

現在筆耕できているのは合計一七六頁分、最大三〇〇

頁なのでまた十分余裕がある。

(2) 各分野の進捗状況報告

政治分野は戦後の行財政は通達文のみ、市町村の施策では消防団の条例しかなく、妻沼町警察署と公安委員会は資料が充実している。熊谷市との合併では小島地区の問題も取り上げたい。河川改修は町村としての枠を出してしまうので懸案。社会・労働分野では闇屋や買出しは当方で行う。災害では雹害などの被害もある。教育分野では終戦直後の教育は大我井青年学校資料を使い、新制中学校の発足では学校沿革誌を使用、その他学校給食、文化財、社会教育関係等を扱った。産業分野では農地改革、土地改良、新農村の建設、農業構造改善事業、ネギの産地指定等を扱い、工業では業種別商工業者一覧や大型店舗の進出や商店街の空洞化等を扱う。

(3) 事務局より刊行スケジュールの確認が行われる。

※午前中は資料調査、確認を行う。

七 仏像調査専門部会

仏像調査専門部会長 林 宏一

平成二四年より調査を開始し、平成二八年は五年目となる。今年は、旧熊谷地域北部から中域を中心とした地域の調査を行った。また、常光院（二回）や熊谷寺（二回）、報恩寺（二回）など大規模な寺院の調査も行った。月に一回、一日一〜二か寺のペースで調査を行い、合計一〇日間、一三の寺院とお堂を調査した。

調査内容は、写真撮影及び寸法や形状・材質等を記した調査カードの作成である。一年間で約二八〇点の仏像・仏画等の調査を終えることができた。この五年間の累計では、一五〇〇点超の調査を行ったことになる。なお、調査前の各寺院との交渉は坂東隆秀委員、調査後の調査カードと写真の整理は西口由子委員が行った。

平成二八年に実施した調査は以下の通りである。

- 1 円光報恩寺①（本堂・祖師堂）（二月二六日）
- 2 上奈良東光寺（二月二六日）
- 3 柿沼龍昌寺（四月二七日）

- 4 箱田文殊院（四月二七日）
- 5 上之泰蔵院（五月一六日）
- 6 上中条常光院①（六月二二日）
- 7 上中条常光院②（七月二五日）
- 8 上奈良妙音寺（九月三〇日）
- 9 鎌倉町石上寺（九月三〇日）
- 10 仲町熊谷寺①（一〇月一七日）
- 11 仲町熊谷寺②（一一月二五日）
- 12 大麻生正光寺（一二月七日）
- 13 円光報恩寺（閻魔堂）（一二月七日）

また、部会長が、「通史編上巻」の第五章及び第九章に、調査の成果も踏まえて、市内の古代及び中世に関する仏像や仏画、金工品についての執筆を行った。

最後に、調査先寺院・自治会関係者各位の多大なる御協力に対して、心よりお礼申し上げます。